

(別記様式第 15 号)

## 令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

中野市

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	中野市里山整備事業（緩衝帯整備）
事業費 1,133,000 円（うち支援金：1,070,000 円）		

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 地域の森林・林業の現状と課題

戦後に植林された人工林の多くが間伐期を迎えている。森林所有者は木材価格の低迷により、森林経営に対する意欲が低く里山の手入れが行われていない。そのため野生鳥獣が潜みやすい藪が繁茂しており、容易に里山近隣に出没する環境となることで農林被害が増加している。

#### (2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

里山の森林整備（緩衝帯整備等）を実施することにより、野生鳥獣とのあつれき軽減を推進する。野生鳥獣による人的被害を防止するため、荒廃した森林環境を整える。

既存の電気柵と合わせて、里山の森林整備（緩衝帯整備等）を実施することにより、野生鳥獣が容易に人里に出没できないように森林環境を整備する。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- 実施場所 間山地区の林縁
- 対象者 間山地区の住民
- 実施方法 緩衝帯整備のための除伐 3.0ha
- 事業目標及び当年度事業量

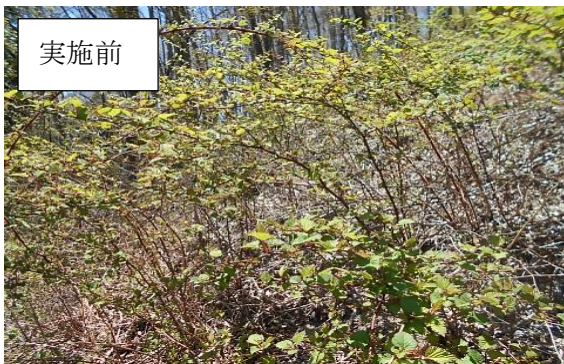
#### ①全体計画（令和元年～令和 4 年度）

令和 4 年度以降は引き続き緩衝帯整備事業を実施予定。

#### ②令和 4 年度実績

緩衝帯整備（間山地区）

実施前



実施後



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

### (1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

緩衝帯整備を実施し、野生鳥獣が潜む箇所が無くなり、人里に近づきにくくすることができる。野生鳥獣による人的被害を防止し、安全な地域づくりを図る。

### (2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

今年度、緩衝帯整備を実施した後、引き続き、緩衝帯整備を予定している。

### (3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

野生鳥獣が出没しにくい里山環境を作ることで森林施業を軽減し、農作物被害を減少させる。また、野生鳥獣による人的被害から住民を守ることができる。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

荒廃している里山の茂みを取り払うことにより、見通しのきく緩衝帯ができた。

### (2) 課題

放置すれば数年で元の茂みに戻ってしまうことから、今後も定期的に施業を行うことが望ましい。

### (3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

引続き、森林緩衝帯整備を予定。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)